

ランヤード

本製品には、フルハーネス、胴ベルトは付属しておりません。別途お買い求めください。その際には「2(シ)」を参照いただき正しい使用をお願いします。
(一部の仕様でフルハーネス、胴ベルトのセット品もございます。セット品をお買い上げの場合は併せて同封の取扱説明書をご覧ください。)

この度は墜落制止用(フールアレスト)器具 ランヤードをご買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品は建設現場、土木工事現場、鉱山及び採石場、電柱、鉄塔などの電気通信線路の工事現場、製造現場、製造設備、建築物、構造物などで、2mを超える高所において、作業者の墜落による危険を防止する業務用の「墜落制止用器具」です。このランヤードをご使用になる前に必ず説明書をお読みいただき、十分にご理解の上で使用ください。特に⚠危険 ⚠警告 ⚠注意の項目については、必ずお守りください。
尚、この取扱説明書は大切に保管し必要に応じてすぐ確認できるように管理ください。(紛失された場合は当社までご請求ください)

必ずお読みください

取扱説明書をよく読み、使用方法がわからない場合は当社にお尋ねください。
命を預ける大切な器具です。やさしく取り扱うよう心がけると共に、日々の始業前点検、使用後のメンテナンスを必ずお願いします。
尚、一度大きな荷重の掛かった場合は部品の再利用も含めて使用をお止めください。

1. 用途



警告

- (ア) 本製品は、高所作業者の墜落制止以外の用途には絶対に使用しないでください。
- (イ) 本製品は墜落制止用(フールアレスト用)です。ワークポジショニングや移動等に使用する製品をお求めの場合は、別途 関連附属器具をお買い求めください。
- (ウ) D環等を追加してワークポジショニング用に改造したものはフールアレスト用としての規格に対して不適合品となります。
- (エ) 墜落制止用器具用ランヤードにはA種フルハーネス型、タイプ1及びタイプ2と、B種胴ベルト型があります。衝撃を吸収する「ショックアブソーバ」部分に以下の項目が記載されています。内容を確認し用途にあった方法で組み合わせてご使用ください。
 - ① 種類(型式)にはフルハーネス型専用、胴ベルト型専用、フルハーネス型兼用、胴ベルト型兼用の明記がなされています。
 - ② ショックアブソーバの種別には、使用方法に応じて、第一種、第二種の種類が表示されています。
 - ③ ショックアブソーバの使用可能な質量が明示されています。質量は作業者の体重と装備品の合計を示します。フルハーネス及び、ランヤードのショックアブソーバに表示されている使用可能質量以下でご使用ください。
 - ④ 最大の自由落下距離とは、ショックアブソーバが正常な機能を示す距離のことです。
 - ⑤ 標準的な使用状況の下で使用した場合の落下距離とは、墜落制止可能な最大距離を示しています。
 - ⑥ 巻取り式ランヤードの場合には、性能表示として、ロック機能の有無、巻取り力停止可能な有無が表示されています。使用条件に応じてお選びください。

2. 使用方法



危険

(ア)～(ケ)



注意

(コ)～(ト)

- (ア) 使用前には必ず「4.点検と廃棄の基準」の点検項目に従って使用前点検を行ってください。
- (イ) 「5.各部名称」を参照し、安全上必要部品が揃っていることを確認してください。
- (ウ) 使用中に異常に気付いた場合は、直ちに使用を止め、再点検を行ってください。
- (エ) ご自身での修理・改造は絶対にお止めください。
- (オ) 屋外に放置しないでください。
- (カ) 正常な作動を保証できる温度範囲(－10℃～50℃)以外では使用しないでください。
- (キ) フルハーネス型、胴ベルト型とも、正常に機能させるため、体への装着においては、緩みなく確実に装着していることを確認ください。
- (ク) フルハーネス型のランヤードの接続環位置については、両肩甲骨の中間位置になるように取り付けてください。
- (ケ) 胴ベルト型の胴ベルトは腰骨の上に位置するように取り付けてください。
- (コ) 「1.用途(エ)」に関して以下の使用条件を考慮して使用してください。
 - ① 種類(型式)に関しては、本製品の規格を確認して正しい組み合わせをお願いします。ランヤードショックアブソーバ部分の表示を確認ください。
 - i. A種フルハーネス型の場合、タイプ1、タイプ2の2種類が存在します。タイプ1ランヤードの場合は第一種ショックアブソーバが用いられ、タイプ2ランヤードの場合は第二種ショックアブソーバが用いられています。
 - ii. B種胴ベルト型の場合は、第一種ショックアブソーバが用いられており、上記A種で使した場合に墜落時に地面などに到達するおそれがある場合の使用が認められています。
 - iii. 本製品は関連附属器具とは機能、長さの点で規格が異なります。混同使用の危険が無いように管理してください。
 - ② ショックアブソーバには種別が2種類存在します。
 - i. 「第一種」の表記ランヤード
最大の自由落下距離が1.8m以下である場合に使用できます。
 - ii. 「第二種」の表記ランヤード
最大の自由落下距離が4.0m以下である場合に使用できます。
- ランヤードには第一種、第二種、の二種類が存在し、各々で使用目的や使用方法が異なります。作業環境をよく見極め、作業責任者の指示に従って正しい使用目的のランヤードを選択してください。
- ③ 作業者の体重に装備品を加えた合計が使用可能質量を超えていないことを確認ください。
- ④ 最大自由落下距離は、ショックアブソーバの性能を十分に発揮する事が可能な落下距離の最大値です。フルハーネス型と胴ベルト型では性能に差が発生しますので接続する製品に合わせた使用環境を確認ください。この自由落下距離を超える使用方法是衝撃吸収を含め重篤な身体への障害が考えられますので絶対にお止めください。
- ⑤ 標準的な使用の下で使用した場合の落下距離は、フルハーネス型及び胴ベルト型に接続した各々の場合に想定される墜落距離を示しています。使用者は、この数値を上回る高さでの作業を常に行う場合において使用できます。高さにおいて不明な点がある場合は必ず作業責任者の指示を確認した上で使用してください。
- ⑥ 巻取り式のランヤードは性能の異なる巻取り器が存在しますので、使用場所を考慮してお選びください。
 - i. ロック装置性能
 - a) 墜落時にロック機能が作動してストラップが全て繰り出すことなく装着者を保持する装置を有する性能のことです。ショックアブソーバカバーに表示されています。
 - b) 基本的には墜落時に巻き取られていたストラップの長さの1／2の長さ以下で繰り出しが停止するように設計されています。
 - c) より安全性を求める場合、ロック装置性能を有したランヤードを用いることで、⑤で示している、標準的な使用の下で使用した場合の落下距離を短くすることが可能になり、墜落距離の低減や衝撃の緩和に大きな効力を示します。ただし使用方法や環境によってその距離は異なりますので、低所での使用の場合は、安全ネット等の安全対策を含めた作業環境をよく検討し、作業責任者と相談の上使用してください。

ii. 巻取り力停止能力

- a) 任意の位置で巻取り力を停止させる機能を備えた巻取り式ランヤードのことです。ショックアブソーバカバーに表示されています。
- b) 作業時の常時発生する引き戻し力を緩和する機能です。
- c) こまめな解除を心掛け、なるべく作業に必要な長さ以上のストラップの引き出しを保持しないでください。
- d) 不必要な長さを繰り出した位置で巻取り力を停止すると、作業中の絡まりの原因になるだけでなく、万が一の墜落時の墜落距離を無用に伸ばす危険性があります。
- (サ) 毎回使用前には「4.点検と廃棄の基準」に基づき点検を行ってください。
- (シ) 製品の性能は同一メーカー製での組合せ試験による数値に基づいて保証されています。他社製品との併用を望まれる場合は個々の性能表示をよく読んでご自身の責任の範囲で行うか、当社にご確認をお願いします。
- (ス) 体側取り付け部について着脱可能な構造のものは、そのコネクタの口部分が完全に閉じており、解除レバーが完全に作動していることを確認してください。
- (セ) 装着後使用しない時はフックを環に掛け、または収納袋に収める等により、ロープ／ストラップ部が垂れ下がらないようにしてください。
- (ソ) 墜落距離を少しでも少なくすることは衝撃を減少させます。フックはできる限り高い位置に取り付けて安全にご使用ください。
- (タ) 取り付け箇所は装着者の可能な限り、墜落した場合に振子状態になってしまわない位置に設けてください。
- (チ) コネクタ(フック・カラビナ)環類は中心部に引張荷重試験を行うことで性能の保証を行っております。曲げ荷重が発生する使用方法や、外れ防止装置のみへの外力発生のような使用方法については適合しておりません。
- (ツ) 回し掛けは、コネクタ(フック・カラビナ)に横方向の曲げ荷重を受けさせたり、取り付け設備の鋭角部での応力集中によって破断したりする等の問題を生じさせますのでできる限り回避できる使用方法をお選びください。
- (テ) ランヤードのロープ／ストラップ部がねじれた状態や結束された状態で大きな衝撃が発生すると破断・裂孔の危険性がありますので、使用中はねじれや結束を解消してご使用ください。
- (ト) ショックアブソーバ部分に回し掛けフックが掛かった状態で使用するとショックアブソーバが機能しない場合が考えられますのでご注意ください。

3. 選定の基準

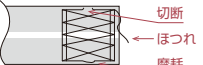
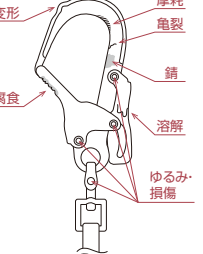
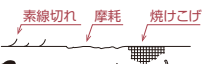
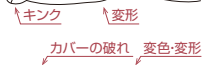
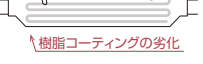


注意

- (ア) 墜落制止用器具、フルハーネス型
 - ① ショックアブソーバの最大の自由落下距離(4m)とショックアブソーバの最大の伸び(1.75m)の合計値に1mを加えた高さ(6.75m)を超える箇所での作業には、フルハーネス型を使用してください。
 - ② フック位置が腰より低い場所になる場合、ランヤードはA種タイプ2を使用してください。
- (イ) 墜落制止用器具、胴ベルト型
 - ① 建設作業における一般的な使用条件(ランヤードの取り付け高さ85cm、ランヤードをハーネスに取り付ける背面環の高さ145cm、ランヤード長1.7m、ショックアブソーバ(タイプ1)の最大伸び1.2m)にフルハーネスの伸び1mを加えた目安高さ5mに対して、これを下回る高さでの作業について胴ベルト型の使用が認められています。
 - ② フルハーネス型は、墜落制止の瞬時に発生する衝撃及びその後の保持時における体へのダメージを、胴ベルト型と比較すると大幅に軽減します。作業条件を確認して適切な器具をお選びください。
 - ③ 胴ベルト型にショックアブソーバがタイプ2のランヤード使用は認められておりません。タイプ2のランヤードを選択する作業の場合はフルハーネス型をご使用ください。尚、タイプ2の作業については「3(ア)①」及び「3(ア)②」を参照いただき、正しい作業高さでご使用ください。
- (ウ) 2丁掛けについて
 - ① 移動時を考慮し、フック掛け替え時の墜落を防止するため、2丁掛けを推奨します。
 - ② フルハーネス型で2丁掛けを行う場合は2本とも墜落制止用ランヤードを使用してください。
 - ③ フルハーネス型の用いるランヤードの種別は作業状況を考慮してタイプ1、タイプ2のいずれかをお選びください。
 - ④ 胴ベルト型で2丁掛けを行う場合は主ロープとして作業に使用するものについては墜落制止用ランヤード(タイプ1)を使用してください。
 - ⑤ 胴ベルト型で2丁掛けの副ロープとして、墜落制止用ランヤード(タイプ1)以外に補助ロープの使用が認められています。ただし補助ロープは、主ロープに墜落制止用ランヤードが使用されていることが条件となり、主ロープ側ランヤードのフックを掛け替える時のみに使用するものとされています。正しい使用方法をお願いします。
 - ⑥ 補助ロープはショックアブソーバを含まないものも含め、移動時のみで作業時に使用しないことを条件に1300mm以下の長さのものをお選びください。
- (エ) 関連附属器具について
 - ① フルハーネス型において関連附属器具に分類される補助ロープ等は使用が認められておりません。主ロープとしてはもちろん、副ロープも墜落制止用器具のランヤードを用いてください。
 - ② 1300mm以下の長さの補助ロープは関連附属器具に該当します。胴ベルト型において移動等における利用として、補助ロープとしての使用は認められていますが、あくまでも補助ロープは墜落制止用ではありませんので、主ロープとしての使用はお止めください。
 - ③ ワークポジショニング用器具は体を固定する効果はありますが、万が一墜落をした場合にそれを制止するためのバックアップとして墜落制止用器具の使用が義務付けられています。墜落制止用器具を入手後、補助ロープを構造物に回し掛けしたり、D環部を胴ベルトに追加加工したり、体の姿勢を預けるような構造に改造することは、用途的に墜落制止用器具ではなくなるだけではなく、摩耗や傷の原因となり、本来の機能が阻害されますのでお止めください。

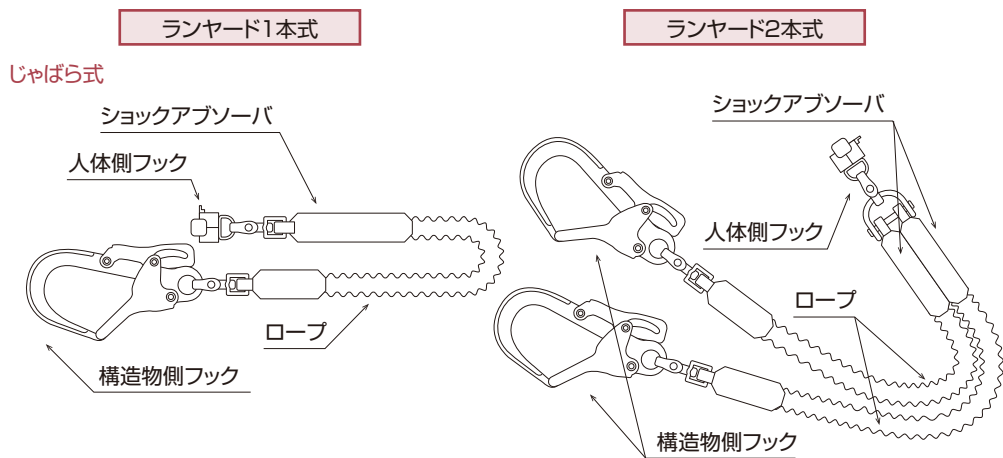
4. 点検と廃棄の基準 警告

- (ア) 日々の始業前、終業後の点検を行い、一つでも該当するものがあれば、直ちに使用を中止してください。
- (イ) 定期点検は半年を超えない範囲で第三者立会いのもと実施してください。
- (ウ) 使用開始から一年を経過しているロープ／ストラップ部及び工具ホルダー等を装着しているベルト部については摩耗も確認を行ってください。
- (エ) 一般的にフルハーネス型の肩及び腿ベルト、胴ベルト型の胴ベルト使用可能期限は3年です。また、ランヤードのロープ部分の使用可能期限は2年です。紫外線等による劣化は目視できませんので使用可能期限を超えての使用はお止めください。

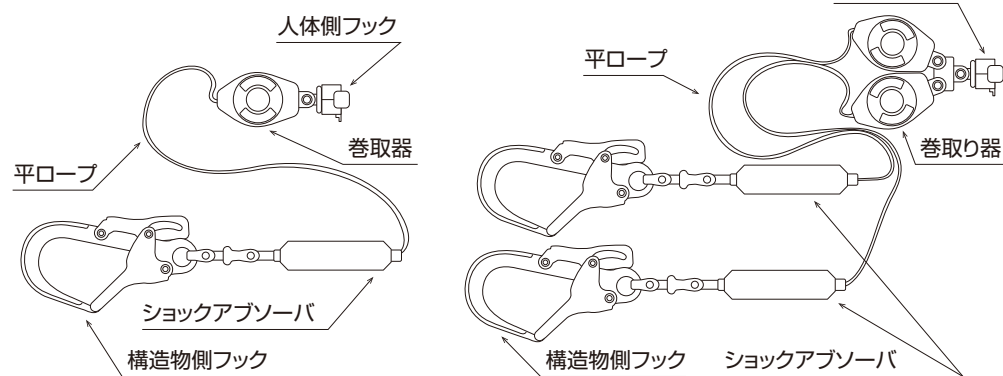
点検箇所・項目	点検方法と破棄基準	始業点検	終業点検	定期点検
縫製部	 縫糸の摩耗、切断、ほつれ	☐	☐	☐
フック部	 金具類の摩耗、亀裂、変形、錆、腐食	☐	☐	☐
	電気ショートによる溶解	☐	☐	☐
	回転部や摺動部の状態	☐	☐	☐
	リベットやバネの状態	☐	☐	☐
		☐	☐	☐
ロープ部 ショック アブソーバ	 ランヤードの摩耗、素線切れ、傷、焼けこげ	☐	☐	☐
	 キンクや燃り戻り等による変形	☐	☐	☐
	 薬品類による変色・硬化・溶解	☐	☐	☐
	 ショックアブソーバの状態	☐	☐	☐
	 樹脂コーティングの劣化	☐	☐	☐
	 ミツ打ちロープ 1リード内で7ヤーン以上切れているもの	☐	☐	☐
	 キンクしているもの。また、形崩れのあるもの	☐	☐	☐
巻取式の 場合	 巻取り器のストラップの巻込み、引き出しの状態。	☐	☐	☐
	ロック機能付き巻取り器については、ストラップを速く引き出したときにロックするか確認。	☐	☐	☐

5. 墜落制止用器具 各部名称

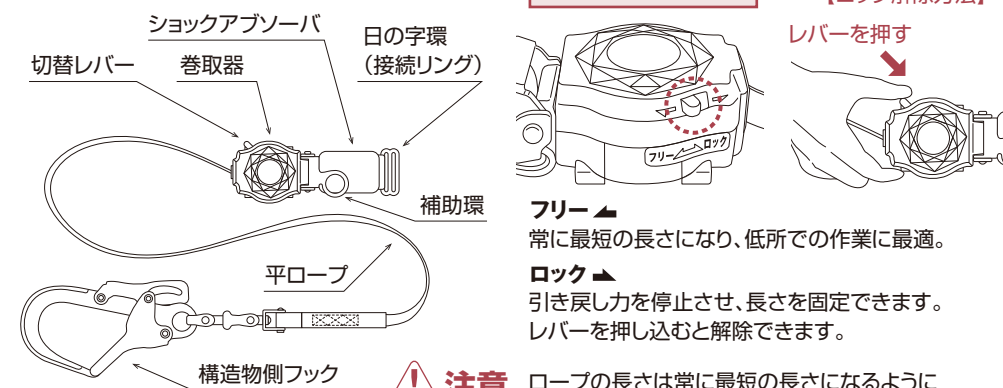
※形状は一例です。



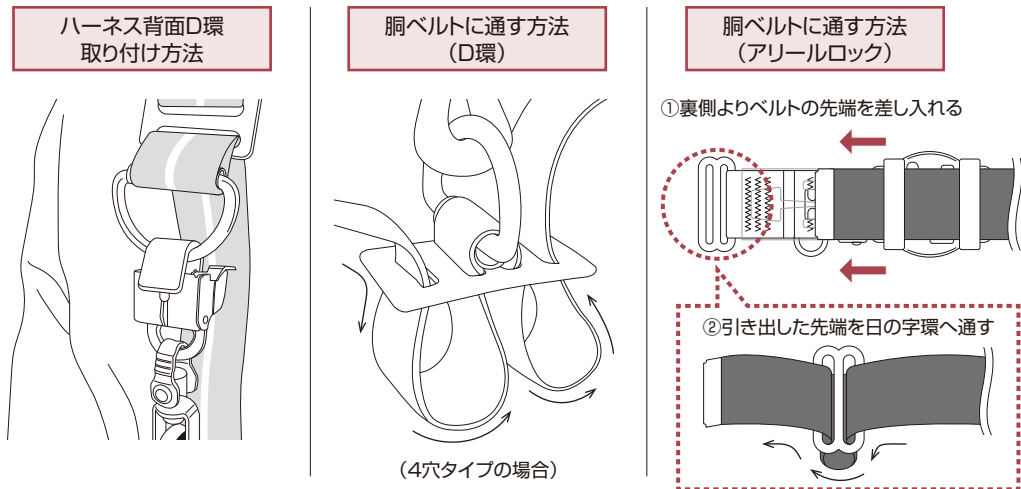
巻取式(RE.CORE)



巻取式(アリアルロック)



6. 装着方法 注意



7. 必ずお守りください 危険 (ア)~(ウ) 警告 (エ)~(キ) 注意 (ク)~(ス)

- (ア) 分解や改造はお止めください。
- (イ) 製品に当初から付属のコネクタ(フック・カラビナ)環類を取り外したり、新たに自身で購入した部材を接続したりするといった改造行為は絶対に行わないでください。
- (ウ) ロープ／ストラップ部でご自身での編み込みや縫製は絶対に行わないでください。
- (エ) ランヤードのコネクタ(フック・カラビナ)は抜けたり外れたり、墜落制止時の衝撃で壊れたりしない、堅固な構造物に取り付けてください。
- (オ) ランヤードのロープ／ストラップ部が切断されるおそれのあるような、鋭い角に触れないようにしてください。
- (カ) 斜めの構造物など、墜落時にコネクタ(フック・カラビナ)がずれる箇所に取り付けないでください。
- (キ) 墜落時に人体が床面に接触しない位置にコネクタ(フック・カラビナ)を取り付けてください。
- (ク) コネクタ(フック・カラビナ)は解除レバーを握り、外れ防止装置が解除されたことを確認してから着脱してください。
- (ケ) 当て掛けと称する乱暴な取り扱いはお止めください。
バネ部や可動部分の損傷を招き重大な事故を引き起こす危険があります。
- (コ) コネクタ(フック・カラビナ)を取り付ける際には、ハズレ防止装置を確実に閉じ、安全レバーが作動していることを確認してください。
- (サ) 低温時に凍結等でレバー類の作動不良が発生する場合があります。異常がないか確認を行ってから使用してください。
- (シ) コネクタ(フック・カラビナ)を腰の位置より低い箇所に掛ける場合は「3.(ア)②」の使用方法にある、(タイプ2)ショックアブソーバ表記のあるランヤードを使用してください。
- (ス) 一度でも大きな負荷の加わったものはその外観に変質が認められなくても十分な性能は発揮できません。使用を止めるとともに誤って再利用がされないよう処置をしてください。

8. 保管・手入れの仕方 注意

- (ア) 墜落制止用器具の保守・手入れは、責任者を定める等により確実に行うとともに管理台帳等にそれらの結果や管理上必要な事項を記録してください。
- (イ) 暗所で通気の良い湿気のない場所で保管してください。
- (ウ) ベルト、ランヤードのロープ／ストラップ部の汚れは、ぬるま湯を使って洗い、落ちにくい場合は中性洗剤を使って洗った後、よくすすぎ、直射日光に当たらない室内の風通しの良いところで自然乾燥させてください。
- (エ) ショックアブソーバ内部に水が浸透しないように留意ください。
- (オ) ベルト、ランヤードに塗料がついた場合は、布等でふきとってください。強度に影響を与えるような溶剤を使用しての洗浄は行わないでください。
- (カ) 金具類が水などに濡れた場合は、乾いた布でよく拭き取った後、さび止めの油を薄く塗ってください。
- (キ) 金具類の回転部、摺動部は定期的に注油してください。砂や泥などがついている場合はよく掃除して取り除いてください。
- (ク) ランヤードのロープ／ストラップ部は墜落制止用器具の中で寿命が最も短いので、ランヤードのロープ等のみが摩耗した場合には、分解改造をしないで、ランヤード全体を交換してください。交換については推奨製品をお求めいただくか、当社までお尋ねください。
- (ケ) 保管場所
- ① 直射日光の当たらないところ。
 - ② 風通しがよく、湿気のないところ。
 - ③ 火気、放熱体などが近くにないところ。
 - ④ 腐食性物質と同室でないところ。
 - ⑤ 粉塵の少ないところ。
 - ⑥ ねずみ等害獣の侵入がないところ。

9. 交換の目安 注意

- (ア) 一度でも落下等の大きな衝撃が掛かったものは使用しないでください。
- (イ) 点検の結果、異常があったもの、摩耗・傷等の劣化が激しいものは使用しないでください。
- (ウ) 使用開始年月の記載を所定の場所に行い、部分品の取替が発生した場合は取替年月の記載も怠らないようにお願いします。
- (エ) 墜落制止用器具の各部の交換目安は以下の通りです。
- ① ロープ／ストラップは紫外線照射による繊維強度の劣化から、2年を目安に交換をお勧めします。
 - ② それ以外の部分については3年を目安に交換をお勧めします。
- (オ) 交換時期はルールを定めて、第三者が確認し促進する仕組みをお願いします。

10. お客様相談窓口

この製品についてご不明な点がございましたらお買い上げの販売店または下記までお問い合わせください。その際には製品に記載の製造番号をお控えになった上でお問い合わせください。

TEL/0794-82-2304
FAX/0794-82-9462
Mail/info@kh-kiyo.com
〒673-0434 兵庫県三木市別所町小林477-10



女性専用フルハーネス

「墜落制止用器具の規格」適合品

フルハーネス型 取扱説明書

〈お使いいただく前に〉

この度は墜落制止用(フォールアレスト)器具 フルハーネス型をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品は建設現場、土木工事現場、鉱山及び採石場、電柱、鉄塔などの電気通信線路の工事現場、製造現場、製造設備、建築物、構造物などで、2mを超える高所において、作業者の墜落による危険を防止する業務用の「墜落制止用器具」です。このフルハーネスをご使用になる前に必ず説明書をお読みいただき、十分にご理解の上で使用ください。

特に⚠危険 ⚠警告 ⚠注意の項目については、必ずお守りください。

尚、この取扱説明書は大切に保管し必要に応じてすぐ確認できるように管理ください(紛失された場合は当社までご請求ください)。

お客様相談窓口

この製品についてご不明な点がございましたらお買い上げの販売店または下記までお問い合わせください。その際には製品に記載の製造番号をお控えになった上でお問い合わせください。

販売元

ジェフコム株式会社

本社：〒579-8014 東大阪市中石切町3-13-16

製造元

株式会社 基陽
KIYO CO., LTD.

TEL/0794-82-2304

FAX/0794-82-9462

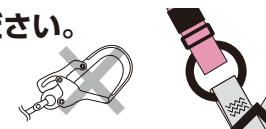
Mail/info@kh-kiyo.com
〒673-0434 兵庫県三木市別所町小林477-10

この製品はジェフコム株式会社の委託により株式会社基陽が製造しました

⚠注意 スムーズリングにフックを掛けしないでください。

フルハーネスの劣化を早める恐れがあります。

フックを使用しないときは付属のフックハンガーに掛けてください。



必ずお読みください

- ◆ 取扱説明書をよく読み、使用方法がわからない場合は当社にお尋ねください。
- ◆ 命を預ける大切な器具です。やさしく取り扱うよう心がけると共に、日々の始業前点検、使用後のメンテナンスを必ずお願いします。
- ◆ 一本吊り専用です。身体を保持する作業には使用できません。
必ず、ランヤードのショックアブソーバに表示されている落下距離を確認の上、表示の落下距離を超えないように使用してください。
- ◆ フルハーネス及びランヤードに表示されている、使用者の装備品を含めた使用可能質量以下で使用してください。

尚、一度大きな荷重の掛かった場合は部品の再利用も含めて使用をお止めください。

警告表示について

危険	取扱いを誤ると、死亡または重傷に至る切迫した危険がある場合
警告	取扱いを誤ると、死亡または重傷を負う恐れがある場合
注意	取扱いを誤ると、傷害を負う・物的損害が発生する恐れがある場合

目次

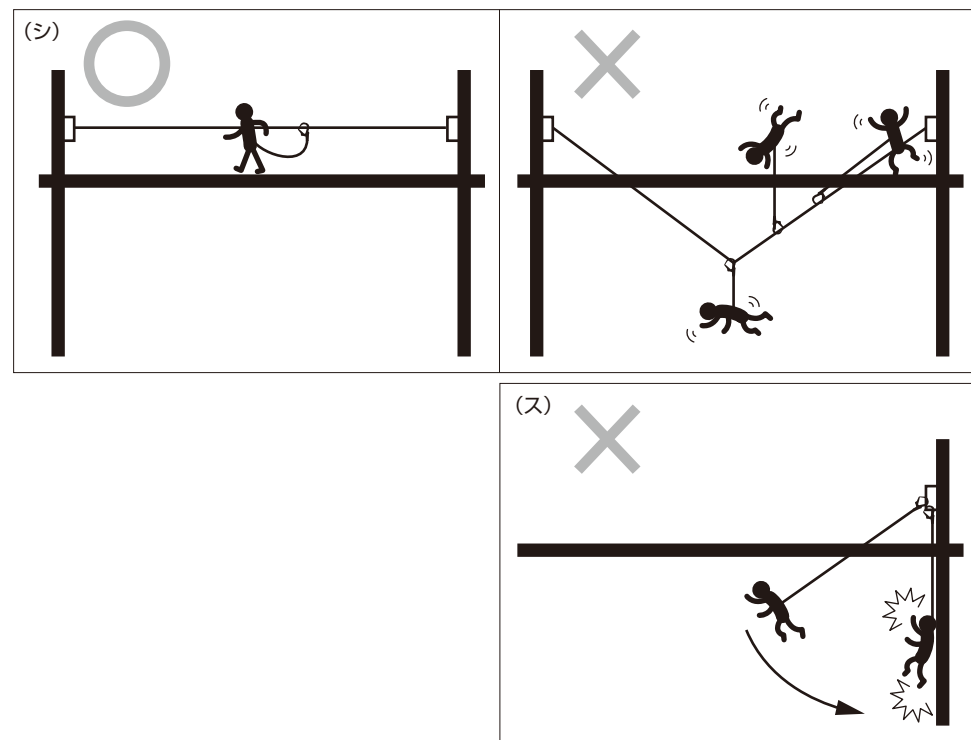
お使いいただく前に	P01
必ずお読みください・警告表示について	P02
使用方法・用途	P03
各部名称及び図	P06
装着方法	P07
交換の目安	P09
墜落制止用器具点検チェックリスト	P10
点検と廃棄の基準	P11
フルハーネス取換要項	P12
フックの正しい掛け方	P13
保管・手入れの仕方	P14
墜落制止用器具の規格について	P15
お客様相談窓口	P16

！危険

取扱いを誤ると、死亡または重傷に至る切迫した危険があります

使用方法

- (ア) フルハーネスを装着する前にランヤードを取り付けてください。装着後に取り付ける場合は、別の人に確実に取り付けてもらってください。
- (イ) 使用前には必ず **P10**「墜落制止用器具点検チェックリスト」の点検項目に従って始業前、終業後点検を行ってください。
- (ウ) **P06**「各部名称及び図」を参照し、安全上必要部品が揃っていることを確認してください。
- (エ) 使用中に異常に気付いた場合は、直ちに使用を止め、再点検を行ってください。
- (オ) ご自身での分解・修理・改造は絶対にお止めください。
- (カ) 屋外に放置しないでください。
- (キ) 正常な作動を保証できる温度範囲(−10℃～50℃)以外では使用しないでください。
- (ク) 正常に機能させるため、体への装着においては、緩みなく確実に装着していることを確認ください。
- (ケ) フルハーネス型の D 環位置については、両肩甲骨の中間位置になるように調整してください。
- (コ) 製品に当初から付属のフック環類を取り外したり、新たに自身で購入した部材を接続したりするといった改造行為は絶対に行わないでください。
- (サ) ロープ／ストラップ部のご自身での編み込みや縫製は絶対に行わないでください。
- (シ) 親綱 1 スパンの作業者は 1 名のみとしてください。
- (ス) 振り子になったり、滑る所へフックを掛けないでください。



**警告**

取扱いを誤ると、死亡または重傷を負う恐れがあります

用途

- (ア) 本製品は、高所作業者の墜落制止以外の用途には絶対に使用しないでください。
- (イ) 本製品は墜落制止用(フォールアレスト用)です。ワークポジショニングや移動等に使用する製品をお求めの場合は、別途 関連付属器具をお買い求めください。
- (ウ) D環等を追加してワークポジショニング用に改造したものは墜落制止用器具としての規格に対して不適合品となります。
- (エ) フルハーネス型ランヤードには、第一種ショックアブソーバ付きのタイプ1と、第二種ショックアブソーバ付きのタイプ2ランヤードがあります。衝撃を吸収する「ショックアブソーバ」部分に以下の項目が記載されています。

- ① 種類(型式)にはフルハーネス型専用、胴ベルト型専用、フルハーネス型・胴ベルト型兼用の明記がなされています。
- ② ショックアブソーバの種類には、使用方法に応じて、第一種、第二種の種類が表示されています。
- ③ ショックアブソーバの使用可能な質量が明示されています。
質量は作業者の体重と装備品の合計を示します。
- ④ 最大の自由落下距離とは、ショックアブソーバが正常な機能を示す距離のことです。
- ⑤ 標準的な使用状況の下で使用した場合の落下距離とは、
墜落制止可能な最大距離を示しています。
- ⑥ 巻取り式ランヤードの場合には、性能表示として、ロック機能の有無、
巻取り力停止可能な有無が表示されています。

- (オ) ランヤードのフックは抜けたり外れたり、墜落制止時の衝撃で壊れたりしない、堅固な構造物に取り付けてください。
- (カ) 墜落時に人体が床面に接触しないように、ランヤードのショックアブソーバに表示されている落下距離を超えないように使用してください。
- (キ) ランヤードのロープが切断されるおそれのあるような、鋭い角に触れないようにしてください。
- (ク) 斜めの構造物など、墜落時にフックがずれる箇所に取り付けられないでください。
- (ケ) 墜落時に人体が床面に接触しない位置にフックを取り付けてください。
- (コ) 雨の日は感電に注意してください。
- (サ) 作業者の体重と装備品が質量を超えないようにしてください。
- (シ) 始業前、終業後に必ず点検を行い、廃棄基準に該当する箇所があれば廃棄してください。
- (ス) 定期点検は第三者立会いのもと実施し、管理台帳に記入してください。

**注意**

取扱いを誤ると、傷害を負う・物的損害が発生する恐れがあります

使用方法

- (ア) 「用途(エ)」に関して以下の使用条件を考慮して使用してください。

- ① 種類(型式)に関しては、フルハーネス型専用、若しくはフルハーネス型兼用の表示のあるランヤードを用いてください。胴ベルト専用や、関連付属器具は使用しないでください。
- ② ショックアブソーバには種類が2種類存在します。
 - i. 「第一種」の表記ランヤード
フックを掛ける位置が腰より高い場合。
 - ii. 「第二種」の表記ランヤード
フックを掛ける位置が足下の場合。

**注意**

取扱いを誤ると、傷害を負う・物的損害が発生する恐れがあります

- ③ 本製品は100kgの試験体でのテスト合格品です。
作業者の体重に装備品を加えた合計が100kgを超えていないことを確認ください。
 - ④ 最大自由落下距離は、ショックアブソーバの性能を十分に発揮する事が可能な落下距離の最大値です。
フルハーネス型と胴ベルト型では性能に差が発生しますので接続する製品の形状に合わせた内容で確認ください。この自由落下距離を超える使用法は衝撃吸収を含め重篤な身体への障害が考えられますので絶対にお止めください。
 - ⑤ 本製品にフルハーネス型専用及びフルハーネス型兼用ランヤードを用いた場合に想定される墜落距離を確認してください。使用者は、この数値を上回る高さでの作業を常に行う場合において使用できます。
高さにおいて不明な点がある場合は必ず作業責任者の指示を確認した上で使用してください。
- (イ) 製品の性能は同一メーカー製での組合せ試験による数値に基づいて保証されています。
- (ウ) 体側取り付け部について着脱可能な構造のものは、フックの口部分が完全に閉じており、解除レバーが完全に作動していることを確認してください。
- (エ) ランヤードを使用しない時は、フックをフックハンガーに掛け、ロープが垂れ下がらないようにしてください。
- (オ) 墜落距離を少しでも少なくすることは衝撃を減少させます。フックはできる限り高い位置に取り付けて安全にご使用ください。
- (カ) フックの取り付け箇所は装着者の可能な限り、墜落した場合に振り状態になってしまわない位置に付けてください。
- (キ) フック・環類は中心部に引張荷重試験を行うことで性能の保証を行っております。
曲げ荷重が発生する使用方法や、外れ防止装置のみへの外力発生のような使用方法については適合していません。
- (ク) 回し掛けは、フックに横方向の曲げ荷重を受けさせたり、取り付け設備の鋭角部での応力集中によって破断したりする等の問題を生じさせますのでできる限り回避できる使用方法をお選びください。
- (ケ) ランヤードのロープがねじれた状態や結束された状態で大きな衝撃が発生すると破断・裂孔の危険性がありますので、使用中はねじれや結束を解消してご使用ください。
- (コ) ショックアブソーバ部分に回し掛けフックが掛かった状態で使用するとショックアブソーバが機能しない場合が考えられますのでご注意ください。
- (サ) フックは解除レバーを握り、外れ防止装置が解除されたことを確認してから着脱してください。
当て掛けと称する乱暴な取り扱いはお止めください。バネ部や可動部分の損傷を招き重大な事故を引き起こす危険があります。
- (シ) フックを取り付ける際には、外れ防止装置を確実に閉じ、安全レバーが作動していることを確認してください。
- (ス) 低温時に凍結等でレバー類の作動不良が発生する場合があります。異常がないか確認を行ってから使用してください。
- (セ) フックの掛ける位置が腰より低い場合は「使用方法(ア)②」の使用方法にある、第二種ショックアブソーバ表記のあるランヤードを使用してください。
- (ソ) 一度でも大きな負荷の加わったものはその外観に変質が認められなくても十分な性能は発揮できません。
使用を止めるとともに誤って再利用がされないよう処置をしてください。
- (タ) ワンタッチバックルは確実にロックされていることを確認の上ご使用ください。



取扱いを誤ると、傷害を負う・物的損害が発生する恐れがあります

用途

(ア) 墜落制止用器具、フルハーネス型

- ① ショックアブソーバの最大の自由落下距離(4m)とショックアブソーバの最大の伸び(1.75m)の合計値に1mを加えた高さ(6.75m)を超える箇所での作業には、フルハーネス型を使用してください。
- ② フックの掛ける位置が腰より低い場合、ランヤードはタイプ2を使用してください。

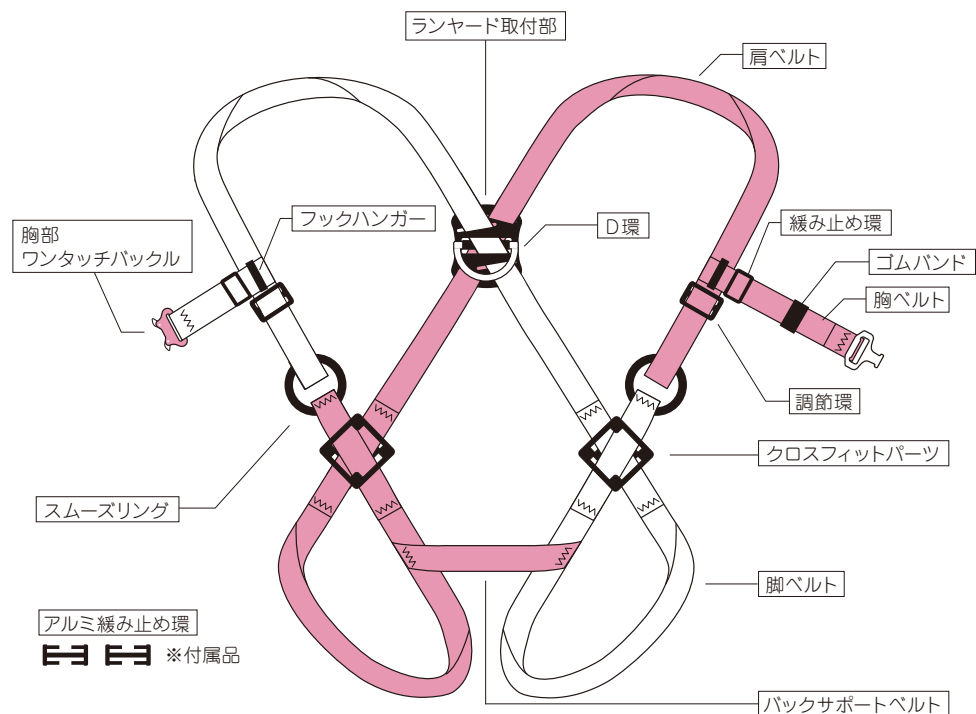
(イ) 2丁掛けについて

- ① 移動時を考慮し、フック掛け替え時の墜落を防止するため、2丁掛けを推奨します。
- ② フルハーネス型で2丁掛けを行う場合は2本とも墜落制止用ランヤードを使用してください。

墜落制止用器具 各部名称

※形状は一例です。

〈フルハーネス〉



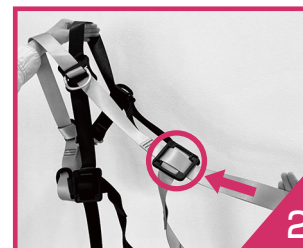
装着方法



各調節部分は十分に身体に合うよう調節し、ゆるみのないよう確認して下さい。



ベルトのねじれがないように整え、表裏を確認します。D環が付いている方が外側です。



クロスフィットパーツを、D環側に寄せておきます。



胸のバックルを外し、履くように脚ベルトに両脚を通します。



肩ベルトに、腕を通します。



胸ベルトのバックルを「カチッ」と音が鳴るまで差込みます。



ランヤードのフックはフックハンガーに掛けます。

ベルトの長さの調節方法は次のページへ ➡

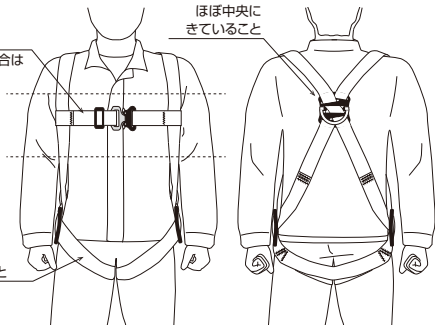
装着方法②

●正しい装着例

胸ベルトが胸の中心に
きていること。

※バストップからずらす場合は
肩から15cm以下、
みぞおち以上の位置に
してください。

D環が肩甲骨の
ほぼ中央に
きていること



ベルトのねじれがないこと



スムーズリングがウエストやや下位置
に、クロスフィットパーツが腰骨のや
や下位置にきていること。

●全体のベルト調節方法

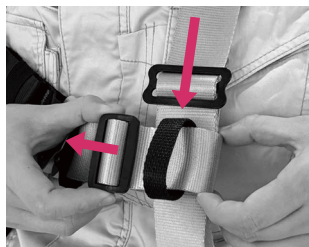


まず付属のアルミ緩み止め環を取り
外します。調節環を上に移動させると
ベルトが絞まり、下に移動させると緩
みます。身体全体にたるみが出ない
よう調節します。



脚のベルト長さを調節する場合は、肩
側の同じ色のベルトの調節環を使っ
て調節してください。必要に応じて、
D環のパッドを動かして調節してくだ
さい。

●胸ベルト調節方法



胸ベルトの位置が高すぎる場合は、
両端の緩み止め環を内側に動かして
ベルトを緩め、調節環の下に動かしま
す。



調節環の下で位置を固定したい
場合は、付属のアルミ緩み止め
環を胸ベルトの下に取り付けて
ください。



胸ベルトの長さを調節し、余ったベル
トはゴムバンドでとめます。

交換の目安

●使用頻度、使用環境や保管方法などによって異なりますが、
墜落制止用器具の各部の交換目安は以下の通りです。

- ①ランヤード(ロープ)は紫外線照射による繊維強度の劣化から、2年を目安に交換をお勧めします。
- ②フルハーネスについては、3年を目安に交換をお勧めします。

●使用期間内であってもP10「墜落制止用器具点検チェックリスト」にしたがって点検を必ず実施し、廃棄基準に
該当するものは使用しないで、新品と取り替えてください。

●点検の結果、異常があったもの、摩耗・傷等の劣化が激しいものは使用しないでください。

●一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。

●使用を開始した年月を「使用開始年月」タグに必ず記入してください。

〈使用開始年月タグ〉

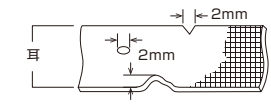
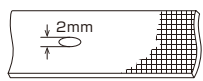
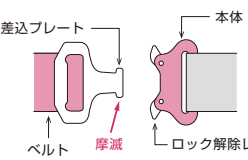
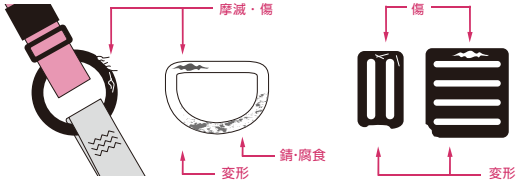
「墜落制止用器具の規格」適合品 ランヤードは墜落制止用器具の規格に適合したものを 使用してください。		種類：フルハーネス型 使用可能な質量：100kg (作業者の体重+装備品の重量)
開始 年月		取替 年月
氏名		
販売元 JEFCOM ジェフコム株式会社		
製造元 株式会社 基陽		TEL：0794-82-2304 兵庫県三木市別所町小林 477-10 MADE IN JAPAN

墜落制止用器具点検チェックリスト

(チェックリストは一例を示す)

墜落制止用器具を正しく使用して頂くため、日々の始業前、終業後の点検や定期点検は必ず行ってください。廃棄基準に該当する場合は新品と取り替えてください。				✓ : 異常なし △ : 異常あり × : 廃棄
各 部 外 観			点 検 項 目 と 廃 棄 基 準	判 定
ベ ル ト	両 耳	摩耗・擦り切れ	2mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの	
		切 り 傷	2mm以上の切り傷のあるもの	
		焼 損 ・ 溶 融	2mm以上焼損・溶融しているもの	
	幅 の 中	摩耗・擦り切れ	2mm以上の摩耗・擦り切れのあるもの	
		切 り 傷	2mm以上の切り傷のあるもの	
		焼 損 ・ 溶 融	2mm以上焼損・溶融しているもの	
	全 体	薬 品 ・ 塗 料	汚れ・変色・硬化しているもの	
		切 り 傷	2mm以上の切り傷のあるもの	
		焼 損 ・ 溶 融	2mm以上焼損・溶融しているもの	
縫製部	縫 糸	1ヶ所以上切断しているもの		
バ ッ ク ル	変 形		締め具合が悪いもの	
			リベットのカシメ部のガタ・変形があるもの	
	摩 滅 ・ 傷		深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
			リベットのカシメ部が2分の1以上摩滅しているもの	
			ベルトの噛合部が摩滅しているもの (正しく装着し、腹部に力を入れてベルトがゆるむもの)	
	錆		全体に錆が発生しているもの	
ば ね		折損・脱落しているもの		
環 類	変 形		目視で確認できる変形のあるもの	
	摩 滅 ・ 傷		深さ1mm以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
	錆		全体に錆が発生しているもの	
ロ ー プ	切 り 傷		1リード内に7ヤーン以上の切り傷のあるもの	
	摩 耗		摩耗して棒状になったもの	
	キ ン ク		キンクしているもの	
	薬 品 ・ 塗 料		汚れ・変色・硬化しているもの	
	損 傷 ・ 溶 融		1リード内に7ヤーン以上の切り傷のあるもの	
	変 形		形崩れ・著しい縮みのあるもの	

点検と廃棄の基準

摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融		摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融	
ベ ル ト	両 耳  2mm以上の摩耗・切り傷等があるもの	幅 の 中	 2mm以上の摩耗・切り傷等があるもの
縫 製 部	 1ヶ所以上切断しているもの		
バ ッ ク ル	バックルの変形・摩滅・傷  変形し、締め具合が悪いもの 1mm以上の摩滅、傷のあるもの		
環 類	環類の変形・摩滅・傷  目視で変形が確認できるもの 1mm以上の摩滅、傷のあるもの		

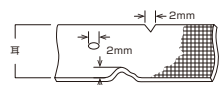
フルハーネス取換要項

フルハーネス型の取換要項例を示したものです。詳しくは、製品の取扱説明書に従って始業前、終業後点検を行ってください。また、始業前、終業後点検のほかに一定期間ごとに定期点検も行ってください。

図に示す各部品の点検項目に該当するものは新品と取り換えてください。
一度でも大きな荷重が加わったものは廃棄してください。

主ベルト

- ベルトの耳または幅の中に2mm以上の損傷・焼損・擦り切れがあるもの。
- 薬品・塗料などが付着して、著しい変色・溶解箇所・硬化箇所があるもの。
- 全体的に摩耗・毛羽立ち・著しい汚れがあるもの。



ランヤード取付部

- ベルトの耳に2mm以上の傷・擦り切れがあるもの。
- ランヤード取付部が破損または紛失し、ランヤードが固定できないもの。

環類

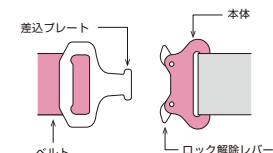
- 深さ1mm以上の傷があるもの。
- 目視で分かる程度の大きな変形があるもの。
- 全体に著しい錆・腐食が発生しているもの。

胸ベルト

- バックルが破損しているもの、または紛失しているもの。
- ベルトに2mm以上の傷・焼損・擦り切れがあるもの。
- 薬品・塗料などが付着して、著しい変色・溶解箇所があるもの。

バックル

- 深さ1mm以上の傷や摩滅があるもの。
- 目視で分かる程度の大きな変形があるもの。
- ベルト縫合部が摩耗や変形により、締まらなかったり、あるいは緩んだりするもの。
- ばねの損傷や異物の混入などによってロック解除レバーが元に戻らなかったり、動きがスムーズでないもの。
- リベットの頭部が1/2以上摩滅したもの。
- 全体に著しい錆・腐食が発生しているもの。



調節環

- 破損しているもの、また紛失しているもの。

縫製部

- 縫製部に緩みがあるもの。
- 縫糸が1ヶ所以上切断しているもの。
- 縫糸が摩耗しているもの。

※形状は一例です。

フックの正しい掛け方

フック等はランヤードのロープ等の取付部と、かぎ部の中心に掛かる引張荷重で性能を規定したものであり、曲げ荷重・外れ止め装置への外力に関しては大きな荷重に耐えられるものではないことを認識した上で使用すること。〈墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン(基発0622第2号)〉による。
従って、フック本体に曲げ荷重やこじあける荷重および、外れ止め装置に押さえ荷重が加わらないように使用してください。

※形状は一例です。

掛け方	正しい掛け方	誤った掛け方
直接掛け		 曲げ荷重やこじあける荷重が加わる例
回し掛け		 曲げ荷重やこじあける荷重が加わる例 外れ止め装置に荷重が加わる例
穴掛け(ボルト穴など)		 曲げ荷重やこじあける荷重が加わる例

アングル材等の角には布等で養生すること

ランヤードのフック等の取付部にショックアブソーバがある形式のものは、回し掛けをしてフック等がショックアブソーバに掛かるとショックアブソーバが機能しないことがあるので、回し掛けしないこと。

保管・手入れのしかた

- 次のような場所で保管してください。
 - ① 直射日光に当たらない所
 - ② 風通しがよく、湿気のない所。
 - ③ 火気、放熱体などが近くにない所。
 - ④ 腐食性物質と同室でないところ。
 - ⑤ 粉塵の少ない所。
 - ⑥ ねずみ等害獣の侵入がない所。
 - ⑦ 子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないような所。
 - ⑧ 新品のままで使用せずに長期間保管する場合は、必ず箱又は袋などに入れた状態で保管。
 - ⑨ 高温(50℃以上)となる場所に長時間保管しないでください。
 - ⑩ ハンガーなどに吊るして保管してください。
 - ⑪ 傷や変形の原因になるので、ハーネスの上に物を乗せて保管しないでください。
- 墜落制止用器具の保守・手入れは、責任者を定める等により確実に行うとともに管理台帳等にそれらの結果や管理上必要な事項を記録してください。
- ベルト、ランヤードのロープの汚れは、ぬるま湯を使って洗い、落ちにくい場合は中性洗剤を使って洗い、陰干しをしてください。
- ベルト、ランヤードのロープに塗料がついた場合は、布等でふきとってください。強度に影響を与えるような溶剤を使用しての洗浄は行わないでください。
- ショックアブソーバ内部に水が浸透しないように留意ください。
- 金具類が水などに濡れた場合は、乾いた布でよく拭き取った後、さび止めの油を薄く塗ってください。
- 金具類の回転部、摺動部は定期的に注油してください。砂や泥などがついていている場合はよく掃除して取り除いてください。

点検における注意事項

- 日常点検のほかに、一定期間ごと(半年を超えない時期)に定期点検を行ってください。
- 墜落制止用器具の点検は、管理責任者を定める等により確実に実施し、管理台帳にその結果や管理上必要な事項を記録してください。
- 始業前、終業後には、作業者が点検チェックリスト(点検表)に従って実施し、異常があると認められた場合は、使用せず管理責任者に報告してください。

墜落制止用器具の規格について

試験項目	墜落制止用器具の規格	適否
肩・腿ベルト	15.0kN以下の力で破断してはならない。	適合
環類	11.5kN以下の力で破断してはならない。	適合
フルハーネス	【順方向】 15.0kN以下の力で破断してはならない。 【逆方向】 10.0kN以下の力で破断してはならない。	適合
フルハーネスの耐衝撃性及び関連性能	脚部から先に、及び頭部から先にそれぞれ落下させたとき、動的トルソーを保持すること。 このとき、ベルトの著しい裂け、縫製部の著しい分離、バックルの破損又はバックル結合部の離脱があってはならない。 また、頭部から先の試験において、動的トルソーの背中側をスライドダウン※1してはならない。	適合
フルハーネス型組み合わせ品の耐衝撃性及び関連性能	・重さ100kgのトルソーを試験落下距離にて、落下。 ・トルソーを保持し、各部の著しい破断なき事。 ・ショックアブソーバの伸び1.2m以下。 ・衝撃荷重4kN以下。 ・落下後のランヤードとトルソーのなす角度は45°以下。	適合

※1)
スライドダウンとは、頭部から先の落下試験において、落下後にトルソーの頭部が上方に復帰しないほど、フルハーネスが本来の位置からずれて戻らないことをいう。